

メールレター(59)

新春

明けましておめでとうございます。新年が良い年でありますようお祈りしております。本年も宜しくお願い致します。

新春は吹雪とともにやってきました。町並みは白い雪にすっポリと覆われています。なかなかやみそうにありません。

年の変わる、大晦日の真夜中には子供たちから「明けましておめでとう」の電話がかかるのが慣わしになっているのですが、今回かかってきたのは娘のみでした。

「明けましておめでとう。今年も宜しく。じゃあね、寝るから。」ドリトル先生はあっけにとられられて電話をきりました。

義理の長男は、早々と6時ごろ電話をよこし、

「早めにおめでとう。シャンペン飲んでるんだ。来年もよろしく。」あらーこれも素っ気ない。長男のそばで、「がぐがぐ、ぎゃーぎゃー」言っているのは、8ヶ月になる孫娘です。お話し体制を学びつつあるようです。

義理の次男ですか、これが大変な思いをしてフランスからコロナ禍のなか大晦日に帰ってきました。行きは家族4人だったのですが、帰りは2人だけだったのです。孫娘に、フランスから出発前のPCR検査でコロナ陽性が出て、母親と2週間フランスに残ることになったのでした。幸い、嫁の生まれ故郷の町(リモージュ)に滞在していたので、嫁の弟の家の離れに滞在することになりました。コロナテストに陰性がでて、病気の症状も出ないと確認されるまでは、そこに隔離されることになりました。絶望して泣きわめく7歳の娘を残して出てくるのは、辛かったようです。

リモージュからパリの空港まではレンタカーで出て、飛行機に乗るのですが、これだけでも一苦勞です。車を返し、飛行機に乗り込み、モンリオールへ。モンリオールの空港で混み合う税関をどうにか切り抜け、フレデリクトン行きの便の乗り換えゲートに到着すると、何と、乗るはずの飛行機はキャンセル。翌日(1月1日)の便に変更となっていました。慌ててホテルを見つけ、荷物を抱え、息子と一晩滞在し、翌日出発することになったのでした。

折しも、大晦日から、コロナ対策で、レストランなどの飲食業閉鎖及び人との接触を避けるため訪問禁止となり、誰にも助けてあげられない状態なのでした。この時期に旅に出るのにはかなりのリスクがあるようです。

義理の次男のフランス滞在は夢のようだったようです。パリの三つ星レストランでの40歳の誕生祝いの夕食をしたり、リモージュの義理の弟の家での暮らしも快適だったようです。念願の

トリュッフ食べ放題の夢も叶ったようです。トリュッフマーケットでしこたま仕入れて、オムレツにし、心置きなく味わってクリスマスを祝ったようです。このマーケットではトリュッフを10万-20万円払って買い込むマニアもいるようです。

「素晴らしい芳香がするんだ」

と、クリスマスを祝う電話口で恍惚として次男は話していました。

「電話じゃ匂いが伝わってこないけど、それは良かった。自慢の腕前で美味しい料理を楽しんでね。」

グルメのドリトル先生は、聞くだけで大満足でした。

「ただし、この芳香を引き出す料理の腕も必要だろうねえ。誰もが素晴らしいトリュッフ料理を簡単に美味しく食べられるわけではないんだけどね。まあ、この辺が言わぬが花かなあ。」と辛口の一言のつぶやき。

次男のこの優雅なクリスマスディナーも、義理の家族と言えども、来る前にコロナのスピードテストをして、陰性だった場合のみ参加できたようです。しかも、テーブルにはソーシャルディスタンスを取ってつくという、美味しさも半減される緊張感が漂っていたようです。それでも、トリュッフ家族の夕べ。ドリトル先生もマダム田中も、コロナ禍の代償を思うと深いため息が出るのでした。こうした用心をしても、孫娘は、病気の症状が無くても、コロナにかかったようです。静かに家族にコロナの足音が近づいて来るのを感じます。

良くしたもので、コロナでも子供はすくすく育ちます。10ヶ月になる孫娘(娘の娘)と8ヶ月になるもう1人の孫娘(義理の長男の次女)は、這い這いを始め、言葉に近い音をだすようになってきたのです。生きる力は素晴らしいものです。

不思議な発見をしました。この2人の孫娘は腕の力を使い、猛スピードでイルカ状態で、這い這いをするのですが、お尻をあげた四つ脚の這い這いは全然しないのです。文明が進んだのでしょうか、進化の猿の段階はスキップしてしまったかのようです。2人とも髪の毛が生え始め(欧米系の赤ちゃんは生まれた時には髪の毛はなく、丸坊主です。アジア系の赤ちゃんは毛が生えて生まれます。娘の子供はこの点だけが私の遺伝子だったようです。毛が生えて生まれました)、目の色(生まれた時は濃いブルー)が変わり始めました。

この2人の孫娘たち見ていると時が経つこととの大きな意味を感じます。幸せに大きくなって欲しいものです。1年後には、この子達は、走り回り、おしゃべりしていることでしょう。